

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	47	学校名	県立土浦工業高等学校				課程	全日制		学校長名	中久喜 歩					
教頭名	村松 則善								事務(室)長名	大貫 誠						
教職員数	教諭	51	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手	13	事務職員	4	技術職員等	3	計	80
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	機械科	67	3	68	4	65	3	/	/	200	10	6				
	電気科	39	0	26	2	38	1	/	/	103	3	3				
	情報技術科	36	4	33	7	33	7	/	/	102	18	3				
	建築科	27	10	25	12	19	18	/	/	71	40	3				
土木科	16	5	26	4	21	7	/	/	63	16	3					

2 目指す学校像

自己開発や自己実現に必要な知識・技能の修得を図るとともに、豊かな人間性の涵養と心身の鍛錬に努め、幅広い視野に立って社会の発展に寄与する青少年の育成を図る。

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	工業に関する実践的な技術、技能の修得と、自ら考え行動する主体性、他者と協働する協調性の育成により、地域社会における産業の担い手として貢献できる人財を育てる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	工業各学科の特徴を生かした実践的・体験的な教育課程と地域産業界・業界団体と連携したキャリア教育による、就職から進学まで、生徒一人一人に対応した進路希望を実現する。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	ものづくりや工業の様々な分野に関心を持ち、専門的な技術・技能の修得と自らの進路実現に向けて積極的に様々な活動に取り組む意欲のある生徒。

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容や目標に関する見通しや自分の苦手分野を見出すことに不慣れなため、自ら考え工夫することが苦手な生徒が多くいる。(生徒アンケート肯定的評価63%) ・話し合いや発表など、周囲とコミュニケーションをとることが苦手な生徒も見られる。(生徒アンケート肯定的評価59%) ・授業に関する予習や復習など自主学習の習慣が身につけていない生徒も多い。(生徒アンケート肯定的評価54%) ・学習評価の活用に学んだことを他の教科に活かすことが苦手な生徒が多い。(生徒アンケート肯定的評価 66%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に授業に関する目標・動機付けをしっかりと行い、自ら考え工夫する力を伸ばす工夫を継続する。 ・授業中の言語活動やグループ学習の中で、コミュニケーション力を高める機会を取り入れ、主体的に取り組む姿勢を養う。 ・学習活動の中で、生徒観察をきめ細かく行い、観点別評価の状況を学習活動の中でフィードバックし、学習活動の中で活かす。 ・個々の授業をより横断的な学習に繋げられるよう ICT 機器に関する教員研修も深め、連携した授業づくりに取り組むこと。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階から自分の未来像を描くことができるよう、適切な時期に進路ガイダンスを行うなど学年と協力しながら取り組んでいくことが不可欠である。3年次の進路決定では、斡旋就職内定率100%、推薦入試合格率100%を目指す。 ・インターンシップや進路セミナーなどの進路行事では、ビジネスマナーや進路の方向性について真剣に向き合うことができるように事前・事後指導を徹底していきたい。 ・資格取得の集計、ジュニアマイスターの申請と表彰、各種奨学金の申請等を正確に実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事では、事前・事後指導を計画的に行い、職業観や就業観のさらなる育成を図る。また、キャリア教育の最終段階として進路セミナーの有効活用により、生徒の個々に応じた進路実現へと結びつけられるように継続していく。 ・求人数増加等に伴う大幅な事務処理の効率化・簡素化など業務改善を図る。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はいじめの重大事態に発展する事案が発生してしまったので、いじめの未然防止のための対策を徹底する。また、教職員や生徒、保護者のいじめの法的な理解をより徹底して、初動対応で遅れをとらないようにする。 ・登下校や授業中、昼休みの立哨、巡回指導を行うことで、生徒は落ち着いて学校生活を送れていると感じる。問題行動件数は、昨年度16件と減少傾向にあるので、今年度は15件未満を目標にする。そのために、遅刻指導を継続して実施し、基本的な生活習慣を身につけさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止・早期発見に努める。 ・遅刻者数の減少に務める。 ・服装指導の徹底を図る。 ・言葉遣いや挨拶指導を充実させる。 ・交通指導の強化を図る。(二人乗り、イヤホン・スマホのながら運転を重点的に指導する。) ・学年と家庭との連携に務める。 ・ICT活用におけるスマホのルールを徹底する。

別紙様式 1 (高)

	<p>せる。自転車運転マナーについては、法改正後の内容の理解を促すとともに、講習や講話等を実施し、交通事故の未然防止に努め、定期的な郊外巡視を行い、ながら運転や並列走行等の違反運転を継続的に指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装や言葉遣いの乱れが多少見られるので、今一度基本的な学校生活の指導を充実させ、よりよい環境の整備に努める。 ・近年SNS関連の問題行動が多いため、スマートフォン等の使用のルールを徹底したい。SNSの使用については、定期的に文書で生徒・保護者に注意を呼びかけている。校内でヤホン・スマホの指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ながらイヤホン・スマホの指導の徹底。
<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会費が部活動費に多く充足されており、行事費の割合が少ない傾向にある。 ・生徒会、常置委員会が自主的に活動できるようになってきており、生徒会行事やボランティア活動等による帰属意識の強化と愛校心の育成に効果が表われている。 ・運動部、文化部が全国大会、関東大会に出場するなど、活動の成果が現れており、各部が積極的な活動をしている。 ・工業祭、つちこうフェスでは企画委員会を中心に適切に準備がおこなわれ、学年、クラスのまとまりも見受けられた。各科の協力を得て、生徒の積極的な取り組みを引き出すことができた。 ・キャリアパスポートの活用は、行事など一部の場面で限定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会費の総合的運用を検討、見直しを図り、全校生徒に還元できる適正な運用方法の研究に努める。 ・生徒会行事を特別活動部職員と生徒会本部役員、常置委員会が協力し、全校生徒が積極的に関わろうとする行事計画を立て各行事の成功に努める。 ・各校務分掌との連携を図り、全職員が生徒会行事に協力できるように働きかけ、成果を通して生徒の参画意欲を育てる。 ・ホームページ等を利用し、生徒会活動や部活動等の広報に努める。 ・土工版キャリアパスポートをホームルーム活動や総合的な探究の時間とも連動して、適正な利用を促し、生徒の学校生活、進路活動に役立てる。
<p>働き方改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度における教職員一人当たりの平均超過勤務時間数は、16時間程度。45時間超の割合とともに県平均を下回る。今後も、面談や見える化等を通して教職員の働き方に対する意識改革に努める。 ・定時退勤日（毎週水曜日）完全退勤時間を設定しているが、徹底に至っておらず、職員への浸透も課題となっている。 ・教職員の超過勤務時間は、校務の偏重や部活動指導を含めた業務内容の違いにより大きなばらつきがあり改善の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「茨城県県立学校の働き方改革のためのガイドライン」(R8年4月改訂)に基づき超過勤務時間の上限を超える教職員へ対応。 ・教職員の業務内容の把握と精選。業務分担を見直し平均化を図るための、校内組織の改編の検討。 ・在校時間管理システムの確実な運用。 ・校務DX（ペーパーレス、ワークフロー、教材共有、AI活用等）の推進。

5 中期的目標

- 1 生徒理解の深化、「心の教育」の充実・推進を図り、高校の担う役割を考えた生徒指導体制を確立させ、地域社会から信頼される学校を目指す。
- 2 「ものづくり」教育を基軸とし、各分野における基礎的・基本的な技術・技能を身につけさせる。また、課題研究、探究活動により専門的、発展的な学習の充実を図る。
- 3 地域産業界や業界団体との連携を深め、特色ある教育課程を編成し、専門教育の充実を図る。
- 4 資格取得・進路指導・部活動等を通して生徒に目的意識を持たせることにより、充実した学校生活の推進と学校教育全体を通して「生きる力」を身につけさせ、社会に寄与できる産業人の育成を図る。
- 5 教職員一人一人が日々の業務の在り方を見直すことにより、自身の生活の質を改善し、「茨城県立学校の教育職員の適切な管理に関する規則」の遵守に努め、長時間勤務を是正する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
工業教育の特色を活かし、社会貢献ができる生徒の育成	<ol style="list-style-type: none"> ① ものづくりや資格の取得を強化して、工業に関する知識・技能・技術を修得させる。 ② 工業教育の特色を十分に発揮し、新たな技術に対応できる実践力と未来を創造する力を養う。 ③ 工業人としての自覚を形成し、社会の変化に対応できる、自ら学び、考える「生きる力」を育む。
主体性を生かしたキャリア教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> ④ 組織的、計画的なキャリア教育により、社会における自己の役割と在り方を探求し、進路決定100%を実現する。 ⑤ 企業や地域社会との連携を強化して、実践的・効果的なインターンシップを実施する。 ⑥ コミュニケーション能力を高めるとともに、正しい勤労観・職業観を育成する。
豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	<ol style="list-style-type: none"> ⑦ 学校・家庭・地域社会が連携して基本的な生活習慣の確立を図る。 ⑧ 一人一人の生徒を理解し寄り添うとともに、高校生としての自覚を持たせ責任感を身に付けさせる。 ⑨ 組織的、計画的な生徒指導を全教員で行い、規範意識を高め、マナーと道徳心を大切にす姿勢を育成する。 ⑩ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域住民、その他関係者と協力して、いじめの防止等に取り組む。
基礎学力の向上	<ol style="list-style-type: none"> ⑪ 生徒の実態に即して、ICT等の活用や「わかる授業」を実践し、授業の改善に努め、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。 ⑫ 必要に応じて、義務教育段階の学習指導も行い、自ら継続して学ぶ習慣を身に付けさせる。

別紙様式 1 (高)

	<p>⑬ 進路希望に応じた個別最適な学びを実践することにより、より高い目標に挑戦する意欲を育て、「確かな学力」を身に付けさせる。</p>
特別活動の活性化	<p>⑭ ホームルーム活動や部活動などの様々な学校生活の中で、自主性・協調性を発揮し、問題解決しようとする実践的な態度を身に付けさせる。</p> <p>⑮ 部活動の加入・継続を促し、健全な心身の成長と、広く有意義な交友関係を築くとともに、学校の活性化を図る。</p>
PTA活動の活性化	<p>⑯ 生徒一人一人の健全な育成を目的として、保護者と教師が密に連携し、信頼関係の上にPTA活動を推進する。</p> <p>⑰ 地域社会と連携し、積極的に情報を発信する機会を設け、開かれた学校づくりを推進する。</p>
信頼される学校づくり	<p>⑱ 教員一人一人が、コンプライアンスを遵守し、「信頼される教員」であることが「信頼される学校」づくりにつながることを認識する。</p> <p>⑲ 教員がこれまでの働き方を見直し、自分の授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行う。</p>
働き方改革に関するもの	<p>⑳ 定時退勤日の設定や時差出勤制度の活用による業務効率化の意識向上と残業時間の削減。</p> <p>㉑ 「部活動の運営方針(改訂版)」(令和4年12月茨城県)に基づいた部活動運営による残業時間の削減</p>
キャリア・パスポートに関するもの	<p>㉒ ものづくりの課題を予見と分析をすることで計画を立て、その課題には適切に処理をしながら改善を加えて、その課題に取り組める力を身につけさせる。</p> <p>㉓ 地域に貢献できる工業人として、働くという自らの将来の生き方に関連する情報を収集し、活用できる力を身に付けさせる。</p>
授業改善	<p>㉔ 高校生のための学びの基礎診断における「平均GTZ指数」C2～D2</p> <p>㉕ 生徒アンケート「生徒の努力を認め、意欲が高まるように学びの内容や進め方を工夫している。」肯定的割合 80%</p> <p>㉖ 生徒アンケート「教師が授業前にタブレット端末をすぐに利用できるように用意させている。」肯定的割合 50%</p> <p>㉗ 生徒アンケート「工業教育の特色を理解し、工業に関する知識・技術を習得できた。」肯定的割合 50%</p> <p>㉘ 茨城県教育委員会が主催する生徒評価アンケートによる生徒満足度(KPI)3.1以上。</p>
安全に対する取り組み	<p>㉙ 授業・実習における作業内容、作業環境の中で起こりうる危険を事前に予測・確認し、事故の未然防止を継続的に行う。</p>